

第3回やすらぎ堤デザイン検討委員会

議事要旨

日時：平成27年7月28日（火）13：30～15：30

場所：NST 3F 会議室ゆめディア

議事次第：1. 開会

2. 委員会の検討スケジュールについて
3. 第2回委員会までのご意見と対応について
4. 区間全体の動線計画および機能・空間配置方針について
5. 未整備区間、整備済み重点確認区間のデザインについて
6. 設備等の整備に係る基本方針について
7. 市民意見の聴取方法について
8. その他
9. 閉会

1. 開会

岩佐委員長より挨拶

事務局より配布資料の確認

2. 委員会の検討スケジュールについて

全体の委員会の検討スケジュールについて了承された。

3. 第2回委員会までのご意見と対応について

第2回委員会の「議事要旨」および「意見と対応」のまとめ方について了承された。

4. 区間全体の動線計画および機能・空間配置方針、および5. 未整備区間、整備済み重点確認区間のデザインについて

委員：水際に一番近い高水敷動線に関して、ヨシがあるところはアクセスしやすくするという計画になっているが、来た人が自由に水の中に入ることを許容するというので良いか。

事務局：水辺へのアクセスは自由使用の範疇で許容する考えである。

委員：バーベキューなどを自由にやって良いということを発信することで人も集まりやすくなると思うが、これは現実的に可能か。

事務局：ルールのない現在は火気使用禁止としている。今後、管理型の広場として扱うなど、やり方によっては可能性があると考えます。

委員：若い人に海辺と川辺どちらへ行きたいかと聞くと、距離は変わらないのに海に行きたがる。やすらぎ堤は、やっては行けないことが多いと感じており、利用の精神的な障壁になっていて若い人が集まりにくいのではないか。

せっかく良いデザインの水辺を作っても、ルールの部分がセットで一体となって進んで

いかないと、狙ったほどの効果が出ないのではないかと。

委員：自転車は車道内のレーンに誘導するとしているが、自転車も見晴らしの良い所を走りたくなるのではないかと。誘導の工夫について現時点ではどのようなことを考えているか。

事務局：堤防天端については「歩行者優先」ということを意識づけるような整備を進めたいと考えている。

委員長：道路交通法が改正され、自転車は車両として扱われるように変わってきている。こうしたトレンドの中で、歩行者と自転車が一緒になる場所では歩行者を最優先とする方向へ誘導して行く方針になると思う。

委員：歩行者と自転車を物理的に完全に分けるのか、自歩道にしてルール化で対応するのか、どちらで考えるかが最も重要である。アルビレックスの試合の後など、自転車と歩行者が混在する場面があるが、心ある自転車乗りは押して歩いており、こういう人が相当見受けられる。今後、新潟市民のモラルの向上が図られることに期待したい。

委員：子どもたちが水に入っているイメージ図があるが、今現在こういう活動があるのか、それとも整備後のイメージを描いているのか。

事務局：イメージパースの場所は未整備区間のため、現在こうした形での利用はできない。すでに護岸が整備されている場所では水に近づくことはできる。

委員：水遊びができるような整備が進めば、子どもたちは水に入っていくと思う。その際、注意喚起看板などで安全確保に十分に配慮する必要がある。また、手洗い・足洗い場が必要になってくる。

トイレの新設では、父子連れに配慮して、男子トイレにもベビーキープを是非付けて頂きたい。

委員長：トイレの新設にあたってはユニバーサル化に加え、施設に余裕のあるような形のものを導入しておけば、足洗い場などにも活用できるかもしれない。

委員：「機能配置の基本的考え方」に挙げられている、ファミリー利用（スポーツ、ピクニック）は意味が分かりにくい。スポーツ、ピクニックをファミリーに限定しているのか。単にスポーツ、ピクニックとして、だれでも利用できるようなイメージにしておいたほうが良い。

委員長：P4の利用形態は、具体的なものと、ちょっとぼやかしたものが混在していてレベル均質でない。再整理して書き方を揃えたほうがよい。

委員：初めて信濃川を見たとき、すごく良い水辺空間が有ると思ったが、天端に登るまではそのような印象が持てなかった。万代の街のほうから見ると真っ直ぐ登る階段が壁のように感じられた。勾配が緩やかに感じられるような工夫や、斜めに登るようなアプローチを付けてアクセスしやすさをアピールするなど、街と川の分断が緩和されるような工夫をしてほしい。

建物のデザインは別として、水辺を見ながら水害の危険性を学ぶ場として、万代やすらぎ館のような機能もった場所が複数点整備できれば、防災教育の良い契機となる。

委員長：萬代橋の視点場の整備では、留まって見るための整備も重要だが、移動する人にどのように萬代橋を見せていくかという演出ができれば、より魅力的なものになると思う。防災教育の場の創出は非常に重要であると思う。施設整備だけでなく、河川空間の使い

方の1つとして念頭に置いて進めていくべきである。

委員：堤防天端のスペースを広げるというイメージはとても良いと思う。このスペースに建物の設置は可能なのか。建物を設置する場合、給排水を確保する必要がある。またかなり広い面積でやすらぎ堤を解放するとした時に、ゴミの問題が生じることに配慮してほしい。使った人が持ち帰るのが原則かと思うが、拠点毎にゴミの集配施設の整備を考慮しておいて欲しい。

自販機で購入すると1円が募金されるような仕組みがある。ミズベリングの取組が進む中で、やすらぎ堤の自販機についても、そうしたソフト面での工夫ができれば良い。

無料 Wi-Fi スポットは設置できないか。外国人の利用者が記念写真を送信できなくて苦労していることが多い。

事務局：建物の設置は可能と考えているが、設備の問題が生じることは、ご指摘のとおりである。どこまで公共で支援できるか等については、今後の個別の相談になってくると考える。新潟市内の公園で Wi-Fi スポットの設置事例はない。他地域では設置例があるようなので、今後検討を進めたい。

委員：船着場の柵の設置位置は、繋船作業スペースや動線の確保に充分配慮を行ってほしい。りゅーとぴあ前の浮棧橋は、水上バスの接岸も可能なものとして欲しい。

6. 設備等の整備に係る基本方針について

委員：仮設売店のデザインについては、出来るかぎり装飾性を抑えるとだけ書かれているが、一方でにぎわいづくりのため、萬代橋付近のカフェを呼び物にしていこうという方針も示されている。イメージパースでも屋根やパラソルに赤や緑が使われ、カラフルなイメージとなっている。新潟に来た人たちにとって最初に目に入るような景観的に重要な場所について、これくらいの緩い決まりで本当に良いのだろうかという点が気になる。商業利用の人はどうしても目立たせたいと思う。

事務局：基本的にやすらぎ堤は「川らしさ」を楽しむ場所として、施設は目立ちにくく溶け込みやすいものを提案している。今後、ミズベリングの商業活動が展開される場所では、賑わいの創出に配慮したデザインについて研究会等を通じて議論していきたい。

委員長：景観には「図」と「地」があって、「地」についてはここで示されるように出来るだけ目立たない方向が良いと思う。仮設的に作られる施設など「図」になる部分に関しては、あまり縛らずに設置した時だけ華やかにするといった考え方で良いのではないかと。自動販売機と仮設売店がまとめて記述されているが、書き分けをしたほうが良い。

委員：出来るだけ多くの人に利用してもらうには駐輪場が必要ではないか。ただし四阿と同じ高さのところでは歩行者空間との区別などで色々問題があると思うので、一段下げたところに作って頂ければと思う。

右岸・左岸を周回して利用できる健康づくりのランニングコースやウォーキングコースが提供できれば、多くの人に利用してもらえと思う。

事務局：今のところ駐輪場については具体的な計画はない。今後、利用の状況を見ながら、要望が出てくれば検討を行う必要があると考える。ランニングコースは、1つの利用形態として魅力的なものであると思うので、可能かどうか検討していきたい。

委員：質感の重視や耐候性への配慮という素材の選定方針には賛成である。劣化したものは替えたくなるが、経年変化したものには愛着が湧くのは共通して感じると思う。
新潟の材木屋さんも頑張っているところがあり、最近加工技術によって非常に耐久性のある天然木も出てきている。ベンチの素材などで、人工木か地場産木か検討する際は、長く使い続けられるものを選んで欲しい。

委員長：眺めを阻害しないことや死角を作らないよう、背もたれのないベンチを推奨しているが、バー状の背もたれを採用する等の方法もあるので、平ベンチに限定する必要はない。
ベンチに寄付者の名前を入れるアダプト方式を導入するのも良い。銘板など人の痕跡があると酷い使い方がされないという効果がある。

委員：ピクトグラムが提示されているが、子供にも分かりやすいものが入っていないように思う。親がいつも一緒にいるわけではないので、子供が事故に会いやすいような場所では、子供が見てわからなければいけないと思う。一般の方に対しても、下に字が入っていないと分かり難いかもしれない。

トイレの整備では、安全面への配慮として、男女分離することはもちろん、照明を明るくしてほしい。

やすらぎ堤には日陰がないという印象をもたれないよう、四阿の検討等では日陰を減らさないようにして頂きたい。

飲食する場所にもパラソルなどの日陰が必ず必要である。

事務局：ピクトグラムについては文字をセットで入れるルールで考えている。子供にも分かりやすくという点については、新規ピクトの作成も含めて検討していきたい。

トイレについては男女分離を原則としている。照明についても明るさの確保を心がけていきたい。

委員：南中度の低い時期は、早々とテーブルに日が差し込んで、座れる場所が限られてしまう事がよくある。設計にあたっては日照を計算してもう少し遮光時間を長くするよう工夫してもらえたらと思う。

委員：柵を設置しない区間は、浅くて安全が確保されていると考えてよいか。柵がないイコール安全と捉えられると少し危険ではないか。

事務局：必ずしも、柵がないところは安全という考え方ではない。万が一転んでも水深が浅くて大丈夫なところは柵を設置しない方針としている。

委員長：今回対象とした施設は、新潟市が整備主体となるものが多いと思うが、新潟市から見てこうしたデザインの統一や誘導に関して何か考えはあるか。

委員：長年をかけていろいろな部署が整備を進めてきたので、統一されたコンセプトが継承されていない面も多い。やすらぎ堤は景観上非常に大事なところと認識しており、この委員会の基本方針を踏まえて継承できるよう、市の内部でマニュアル的なものを作って、計画、整備、管理する各部署が統一して取り組めるようにしたい。

7. 市民意見の聴取方法について

委員：これから夏に向けて各団体でイベント等が開催されるが、イベント時にブースを設置して意見聴取の場とすることを提案したい。

委員長：利用しているその場で意見を聴取するのは非常に重要だと思う。案2のプラスアルファになり、各委員にお手数をお掛けしてしまうことになるが、そのほうがより有効なパブリックコメントになるかもしれない。

事務局：イベント時のブース開設と、その場での意見聴取については前向きに検討したい。

委員長：意見を踏まえ、案2については、確実に実施することとしたい。また広く意見を聴取するという方法について、案1のパブコメが良いのか、イベント時の意見聴取等を行う方法がよいのか、スケジュールを見ながら検討していくこととしたい。

8. その他

新潟市より、直近のやすらぎ堤緑地の工事状況について報告が行われた。

委員長：今後の工事にあたっては、委員会で検討されている部分をキャッチアップしながら進めて頂きたい。また計画、整備、管理の3つをセットと考えて進めて欲しい。

今回の審議において、動線計画および機能・空間配置方針、および未整備区間および整備済み区間について、新規整備及び改良整備のイメージと期待される具体的な施設について議論できたと思う。

さらに主要な施設・設備について、今後のデザインの方向性もある程度見えてきたと考える。今後は、本日のご意見を反映した資料をもとに、市民の意見を聴取して頂いた上で、最終的な整備方針の取りまとめを行いたい。次回の委員会では、整備方針のとりまとめ結果の案について報告して頂き、委員会としての最終案を審議したい。

9. 閉会

信濃川下流河川事務所 井上事務所長よりあいさつ

以上